

七五三

MIYUKI* KIMONO

【肩上げ/身上げ編】

七五三 【肩上げ/身上げ】

着物・襦袢・羽織の肩上げ 1

羽織の身上げ 3

女兒着物の身上げ 5

〒663-8021 兵庫県西宮市上之町3-6 フリーダイヤル ☎0120-25-4677

《MIYUKI*KIMONO出張着付け教室》

着物・羽織・襦袢の肩上げをします。(衿を短くします。/ 肩上げは男女共同様です。)
 (着物も羽織も襦袢も全く同じやり方です。ただ、羽織は着物より 1cm 長く、襦袢は着物より 1cm 短く仕上げるだけです。)



① 採寸をします。

A お子様の採寸

衿(ゆき)・・・・・・・・背骨～手首まで

B 着物・羽織・襦袢の採寸

衿・・・・・・・・背縫い～袖口まで



② 何センチ短くするかを、計算します。

着物の衿 $B-A$ =短くする寸法

羽織の衿 着物の衿より 1cm 長くします。

襦袢の衿 着物の衿より 1cm 短くします。



③ 短くする寸法を肩幅の真ん中でつまみ、まち針でとめます。



(例) 着物を 4cm 短くする場合

羽織は、3cm 短くします。

襦袢は、5cm 短くします。

(着物) 肩幅の真ん中(赤いまち針)より左右に 2cm ずつ(青いまち針)をつまみます。

(羽織) 肩幅の真ん中(赤いまち針)より左右に 1.5cm ずつ(青いまち針)をつまみます。

(襦袢) 肩幅の真ん中(赤いまち針)より左右に 2.5cm ずつ(青いまち針)をつまみます。



- ④ そこから(赤いまち針)、前と後に 13cm 程ずつ、その幅をまち針でとめていきます。



- ⑤ まち針でとめた部分を縫います。(二本どり)

運針で構いませんが、表にあまり大きな糸目を出さない方が綺麗に仕上がります。

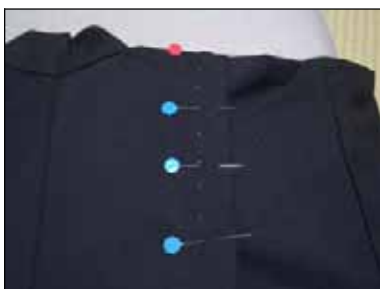
【注意】糸は、糸目が目立たない様に、着物と同色もしくは近い色を使用します。

(ここでは、糸目が分かりやすい様に、白糸を使用しています。)

つまんだ部分は、袖側に折ります。

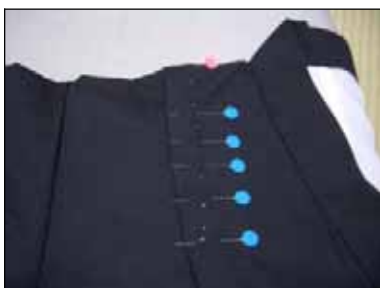
糸目は、首側が見える事になります。

(後ろ側)



☆後ろ側・・・まち針の位置をそのまままっすぐ縫います。

(前側)



☆前側・・・縫い終わりの位置が、まち針の位置から 1cm 程、脇側(折り山側)にくる様に縫います。

(理由)

着物の胸幅が広くなり、衿合わせが綺麗になります。

(裏側の縫い目)



☆裏側・・・裏側は見えませんので、糸目も大きくて大丈夫です。

反対側も同様に縫い出来上がりです。

羽織の丈を上げます。(羽織の丈を短くします)

(羽織を羽織ってみて、長すぎる場合だけでいいでしょう。)



① 採寸をします。

A お子様の採寸

首のつけ根～足首のくるぶしまで

仕立て上がり寸法・・・ $A \times .075$

(バランスの問題ですので、おおよそで構いません。)



B 羽織の採寸

肩山～裾まで

② 何センチ短くするかを、計算します。

$B - (A \times 0.75) =$ 短くする寸法

(バランスの問題ですので、おおよそで構いません。)



③ 裾から 8cm 上にまち針を打つ (赤いまち針)、短くする寸法の 1/2cm の箇所にまち針を打つ (黄色いまち針)、そこから短くする寸法の箇所にまち針を打ちます。(青いまち針)

④ 黄色のまち針と青色のまち針の箇所を合わせて、まち針でとめ直します。



⑤ この幅をまち針でとめていきます。

(例) 10cm 短くする場合

裾から 8cm (赤いまち針)、そこから 5cm 上(黄色のまち針)、そこから 10cm (青いまち針) の箇所にまち針を打ちます。

黄色いまち針と青いまち針を合わせて、とめ直し、その幅をまち針でとめていきます。

(表の針目)



⑥ まち針でとめた部分を縫います。(二本どり)
運針で構いませんが、表にあまり大きな糸目を出さない方が綺麗に仕上がります。

(表の針目は小さく、裏は大きく)

(裏の針目)



【注意】糸は、着物と同色もしくは近い色を使用します。

(ここでは、糸目が分かりやすい様に、白糸を使用しています。)

女の子の着物の身上げをします。(着物の丈を短くします)

【注意】3歳と7歳では上げる箇所が違います。



① 採寸をします。

A お子様の採寸

首のつけ根～足首のくるぶしまで

(写真は男の子ですが、女の子も同様です)



B 着物の採寸

肩山～裾まで

② 何センチ短くするかを、計算します。

$B - A =$ 短くする寸法

☆ 三歳の場合

③ 裾から上、A (お子様の寸法) $\times 4/10$ の箇所にまち針を打つ (赤いまち針)、短くする寸法の $1/2\text{cm}$ の箇所にまち針を打つ (黄色いまち針)、そこから短くする寸法の箇所にまち針を打ちます (青いまち針)。



④ 黄色のまち針と青色のまち針の箇所を合わせて、まち針でとめ直します。

⑤ この幅をまち針でとめていきます。

(例) 着物の長さ 96cm、お子様の寸法 72cm 場合

短くする寸法は、24cm

裾から 29cm($72\text{cm} \times 4/10$) の箇所にまち針 (赤いまち針)、

そこから 12cm(短くする寸法の $1/2$) (黄色いまち針)、

その上 24cm の箇所にまち針 (青いまち針)



☆ 七歳の場合

- ③ 裾から上、A（お子様の寸法）×1/2 の箇所にもち針を打つ（赤いまち針）、短くする寸法の 1/2cm の箇所にもち針を打つ（黄色いまち針）、そこから短くする寸法の箇所にもち針を打ちます（青いまち針）。

④～⑤ は、三歳の場合と同様です。



【ポイント】

衿端は揃えます。

その為に出る緩みは、おくみの中でひだをとり、縫い目は合わせて、まち針でとめます。

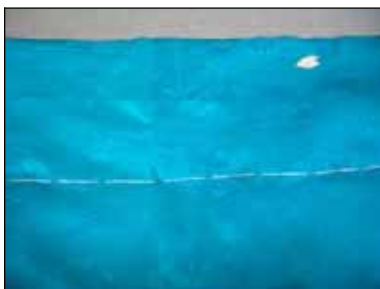


（裏の縫い目）

- ⑥ まち針でとめた部分を縫います。（二本どり）

運針で構いませんが、表にあまり大きな糸目を出さない方が綺麗に仕上がります。

【注意】 糸は、着物と同色もしくは近い色を使用します。
（ここでは、糸目が分かりやすい様に、白糸を使用しています。）



（上前）



☆上前（着物を着た時、左側の身頃）

縫い終わりの位置が、まち針の位置から 2cm 程下（折り山側）にくる様に、上前（着物を着た時、左側の身頃）の脇から徐々に下げて縫います。

（理由）

着物を着た時、下になる着物の裾が見えない様にです

(反対側)



☆ その箇所以外は、まち針の位置をまっすぐ縫います。

出来上がりです。